

南太秦だより

平成26年度前期 学校評価のおしらせ

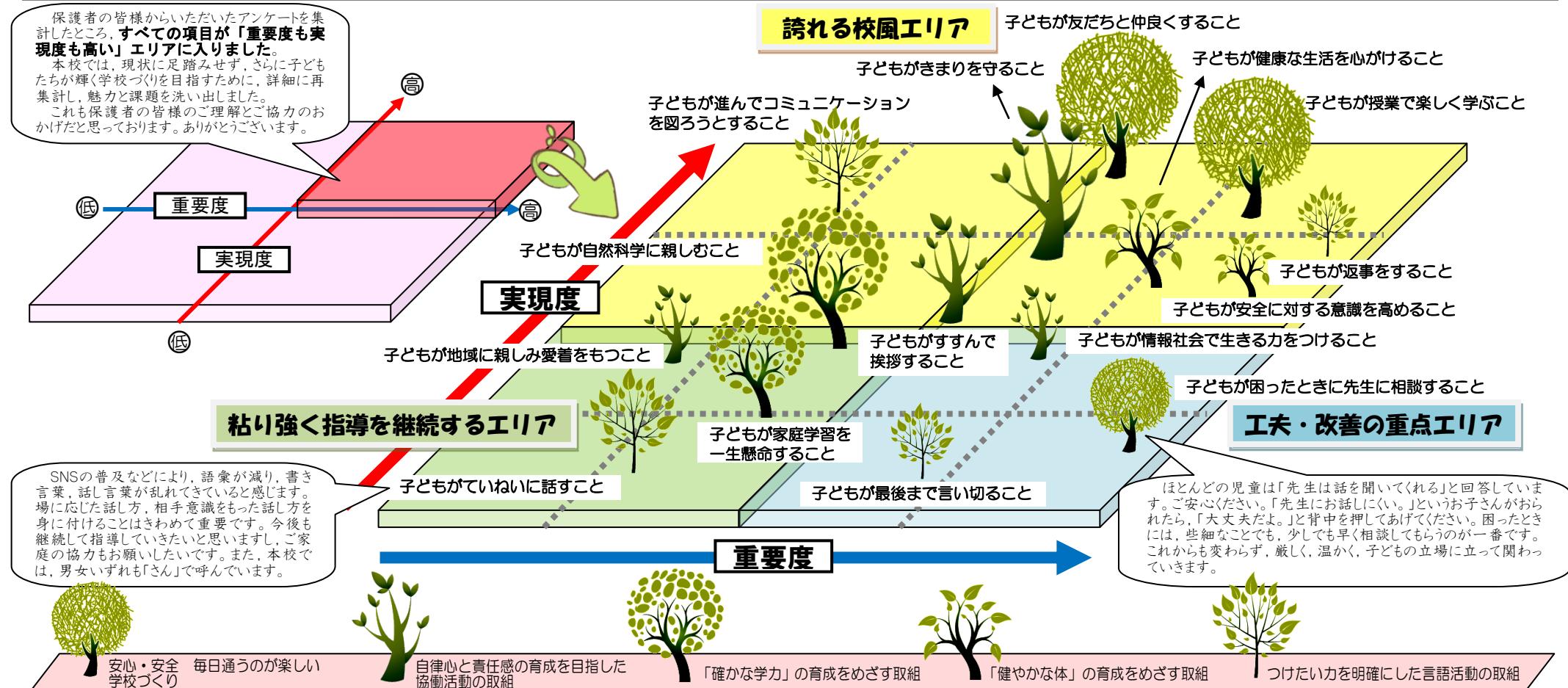
全4ページで、学校評価の結果をお知らせします。ぜひご一読いただき、今後の取組にご協力いただきますようよろしくお願いします。

平成26年9月26日
京都市立南太秦小学校
校長 乘本 栄子

南太秦の子どもたちは、授業で楽しく学ぶ習慣が身に付いてきています。また、友だちを受け入れ、思いやりの心をもって接することができます。けんかをしても、自分をぶり返すこと、相手を許すことのできる子が多く、早い段階で解決しています。そして、きまりを重視する心も、校内では多くの子に育っているのを感じます。保護者の皆様の願いと子どもたちの思い、そしてわたしたち教職員の実感が重なっている「南太秦小の魅力」です。

一方、少し控えめな傾向の児童が多い本校では、さまざまな場面で自分からコミュニケーションを図ろうとする態度を育てたいと思っています。「目を見て笑顔で自分から」の挨拶ができるよう、さらに働きかけていくと共に、返事をしたり、最後まで思いを言い切ったりすることができるよう指導していく必要があると感じています。

さらに、学校でできしたこと・学んだことが、門を一歩出ても生かせる子になってほしいと願っています。特に、安全・メディア・きまりについては、絶対に連続させていきたいです。家庭学習も同じです。もう一度4月にお配りした「南太秦版・家庭学習のてびき」をご覧いただき、お子さんの学力向上のためにご協力いただきたいと思います。

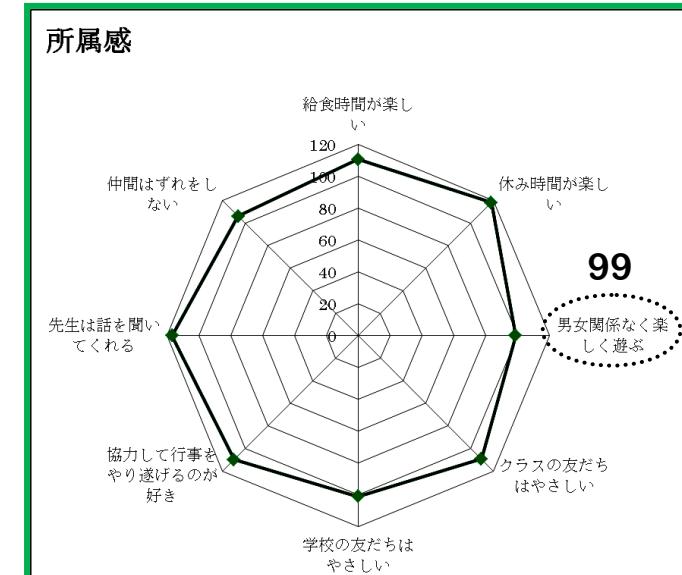
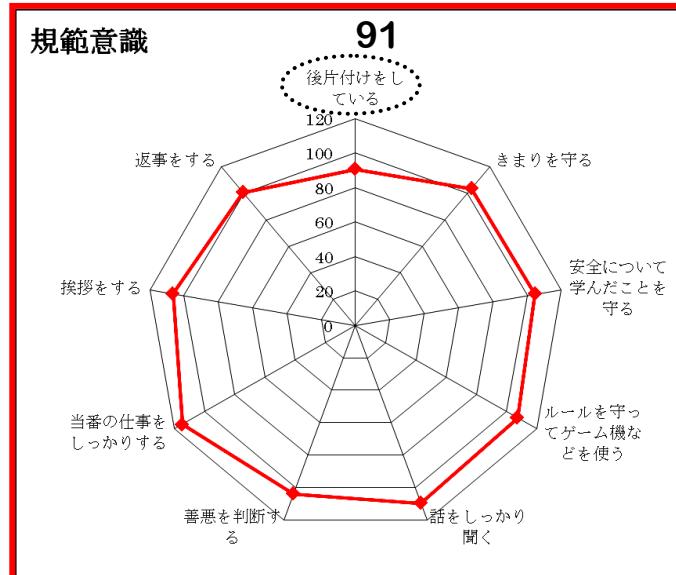
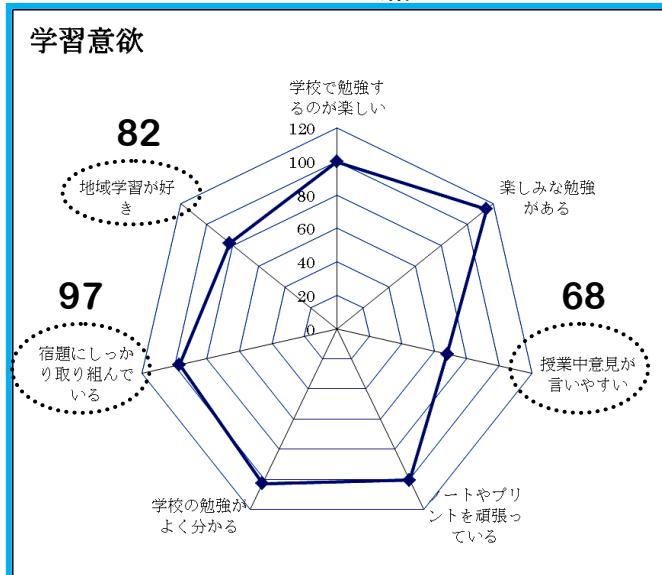


今回は、自然科学・環境に力を入れている南太秦らしく、樹木のイラストで示しています。木の大きさにちがいがある（大・中・小）のは、教職員の中間評価を反映しているためです。大きく木が育っているところは、教職員が子どもたちの育ちを実感しているところ、反対に、木が小さいところは、引き続き取組を進め、しっかりと子どもに力を付けていきたいところです。



南太秦の子どもたちのがんばりは、「ふりかえりシート」の回答傾向からも分かります。

すべての子どもたちが「そう思う」「できている」と答えられる学校をめざしたい…その独自集計の目標値が100です。



これからの取組 ~後期への3つのステップ~



2往復の会話、3方向の会話を積極的に取り入れ、児童のコミュニケーション能力を育てます。

クラスの友だちに対しても、担任の先生に対しても、非常に高い安心感と信頼感を示している子どもたちが、授業中に自分の考えや意見を述べることに自信をもてないでいるかもしれない実態がうかがえます。学校では、これまでから、子どもたちが話しやすい場づくりをしたり、どのように話すのか（「話型」といいます）の指導を積み重ねたりしてきましたが、さらなる取組が必要だと感じ

ています。「何を」「何のために」話すのか、話す目的を明確にすることも、わたしたち指導者の重要な役割だと感じます。

話す意欲は、「反応がある」ことによってさらに高まっていきます。自分の話したことに対して、共感であれ反論であれ、言葉があるこそ「聞いてもらっている」実感がわきます。少なくとも2往復の会話、という取組には、しっかり聞いて反応する力を身に付けるねらいがありますので、引き続きすべての学級で取り組んでいきます。

また、対面では煮詰まってしまう会話も、司会者や第三者が側面から助け船を出したり、違った視点を提示したりすることで潤滑になることが多いです。3方向の会話を訓練することは、会話・話し合いを途切れさせないようにする力を育てるものです。

このように、ねらいをはっきりともった取組を通して、児童のコミュニケーション能力を育てていきたいと思います。



あふれる情報にまどわされない正しい判断力が育つよう、ICT機器を活用する機会を通じて「情報モラル」を指導します。

児童の多くが、ゲーム機やケータイ・スマホなどを使うときにはおうちの人との約束を守っている、と回答していることにはひと安心ですが、わたしたちは、多くの子どもが、その危険性・落とし穴についての理解が十分ではないと考えています。保護者の皆様の情報教育に対するニーズを考えると、ご家庭と協力して「情報モラル」の指導は強化しなければなりません。

例えば、「写真に写してよいものとよくないものがある」「文字にして送ってよいことと悪いことがある」「押してよいボタンといけないボタンがある」など、ごく初歩的なことでも、誤った習慣が身に付く前に指導しておきたいものです。

また、最近では、「調べる」＝「インターネット検索」という傾向がありますが、WEB上の情報が本当に正しいのかどうか、見極める訓練もしていかなければなりません。学校では、図書室の学習用蔵書を充実させたり、右京中央図書館の団体貸出を利用したりして、子どもたちに活字で調べさせることにも取り組んでいます。インターネットの手軽さ・スピード感はありませんが、情報を吟味し、取捨選択する力は大いに育ちます。各ご家庭でも、図書の有効活用を大切にしてください。(辞書も、ページをめくって探して調べてこそ力が付きます。安易に電子辞書等を使わせないようしていただけするとありがいです。)



地域のよさに出会い、地域の人々とふれ合い、自分自身を見つめる「地域に学ぶ学習」を通して、自己有用感と郷土への愛情を育てます。

本校は、地域の皆様のご支援・ご協力によって、地域のよさに出会い、地域の人々とふれ合うことのできる特色のある教育活動が実現しています。次ページに、各学年の取組(抜粋)を掲載していますので、ぜひご覧いただき、その取組・活動の際には各ご家庭でも話題に挙げていただければありがたいです。

また、地域に学ぶ学習は、「知る・教わる」だけで終わることなく、地域のために自分ができることを考えたり、実際に行動したりすることが大切です。一方通行ではなく、学びをアウトプットできる双方向性の学習を今後も実践していきます。

「地域（南太秦，太秦地域，京都）に学ぶ学習」一覧（抜粋）

1年	2年	3年	4年	5年	6年	全校
○地域高齢者の皆様へのお花配り	○サツマイモ植え ○おいもパーティ ○まち探検 ○地域高齢者の皆様へのお花配り	○「蚕がつむいだ太秦」 ○地域高齢者の皆様へのお花配り	○みやこユニバーサルデザイン ○「二つの川が流れる町，南太秦」	○京都の伝統産業体験 ○京料理 ○てくてく南太秦 ○ジュニア京都検定	○右京区の文化財 ○京都ラリー ○ジュニア京都検定	○地域高齢者の皆様へのお手紙

学校運営協議会 理事の皆様より（学校関係者評価）



情報社会に流されず、主体的に「情報を活用する力」を身に付けてほしいです。

- ケータイ・スマホ・ゲーム機の所有がますます低年齢化してきています。「本当に必要なのかどうか」を保護者の方には今一度考えていただきたいです。
- 子どもたちの情報モラルは、保護者の方をはじめ、身近な大人の意識・行動に大きな影響を受けています。子どもといっしょにルールを考え、率先して守るモデルになることが大事ではないでしょうか。
- インターネット環境は、使い方次第で生活を豊かにしたり、反対に生活を破壊したりします。禁止ではなく、「活用すること」「生きた情報を得ること」を教えたいものです。
- 歩きスマホ、どこでもスマホは、交通面でも大変危険で、マナー面でも子どもに見せたくありません。
- 他府県には、PTAや学校が「夜9時を過ぎたらメールさせません。」「ケータイ・スマホは親が責任をもって管理します。」など強い意志を表明しているところもあります。与えるだけでは絶対にいけません。



南太秦の子には、「折れない心」をもつ、自己有用感の高い子になってほしいです。

- 地域学習や道徳の学習を積み重ねて、豊かな心を育むことが大事ですね。



相手の気持ちを読みながら（汲み取って）話せる子に育ってほしいです。

- コミュニケーションの基本は、まず「聞く」と。学校の指導を見っていても、それを感じます。家庭でも、きちんと「聞かせ」ましょう。



学校以外の場所・場面でも、今以上に規範意識に基づいた行動のできる子どもたちになってくれるとうれしいです。

- あいさつも、もっと自分たちからできるようになったらいいのにな、と思っています。